

大学の強みを生かした小学校教員養成課程について

# 心理学部における 小学校教員養成

明治学院大学 心理学部 教育発達学科

学科主任 教授 水戸博道

教授 小林潤一郎

# 心理学部教育発達学科の概要

## ■ 明治学院大学

1863年創設の私立大学 収容定員11,800名

教育理念: Do For Others (他者への貢献)

白金・横浜の2キャンパス

文・経済・社会・法・国際・心理の6学部16学科



## ■ 心理学部教育発達学科

2010年開設 学士(教育発達学) 入学定員145名(2017年から)

児童発達・特別支援・国際教育の3コース制(2015年から)

小学校・幼稚園・特別支援学校教諭一種免許状

# 小学校教員養成課程設置の背景

1990年 文学部心理学科 (入学定員60名)

中学社会・高校公民・特別支援学校教諭一種

2001年 心理臨床センター設置 (2004年から学部付属研究所)

2004年 心理学部心理学科 (入学定員200名)

中学社会・高校公民・特別支援学校教諭一種

2008年 文部科学省教育GP選定 心理支援論:心理学教育の新スタンダード  
心理支援力の育成、体験活動、循環型教育システムの採用

2010年 心理学部教育発達学科 (入学定員100名)

小学校・幼稚園・特別支援学校教諭一種

2015年 コース制導入 入学定員130名

2017年 入学定員145名

# 小学校教員養成課程設置の背景

## 学校教育の課題

学ぶ意欲・学力・気力・体力の低下

いじめ、不登校、  
インターネットを通じた「新しい荒れ」

LD、ADHD、高機能自閉症など  
発達障害のある子どもへの支援

保護者、地域社会との信頼

中央教育審議会（2006年7月11日）  
「今後の教員養成・免許制度の在り方  
について（答申）」

学齢期の子どもと保護者の心をめぐる問題であり、心理学に関連した重要な課題！



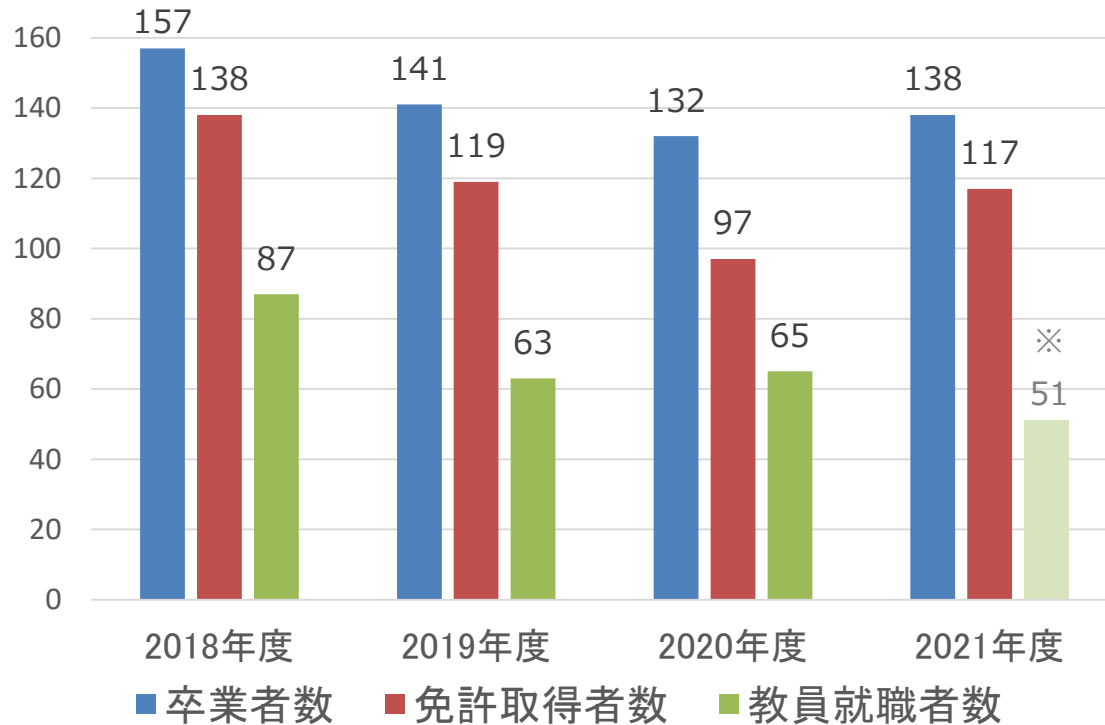
学齢期における子どもの心を理解し、  
子どもの心の成長を支援することを通じて、  
課題の解決に向けて積極的に  
取り組む人材を養成する！



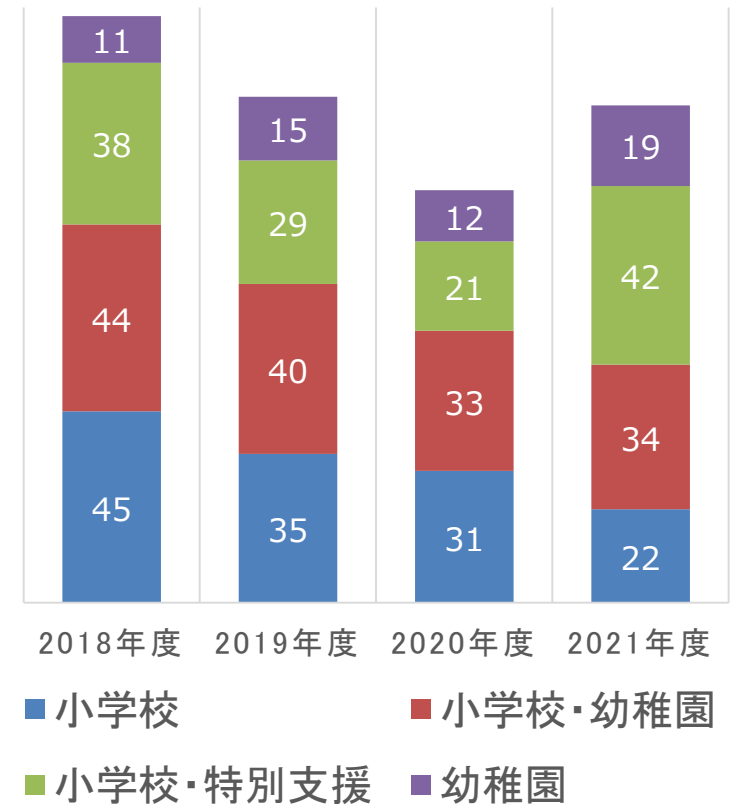
教育発達学科開設  
小学校教員養成課程設置

# 免許状取得者数と教員就職状況

卒業者数・免許状取得者数・教員就職者数  
(2018～2021年度) ※2022年3月8日現在判明分

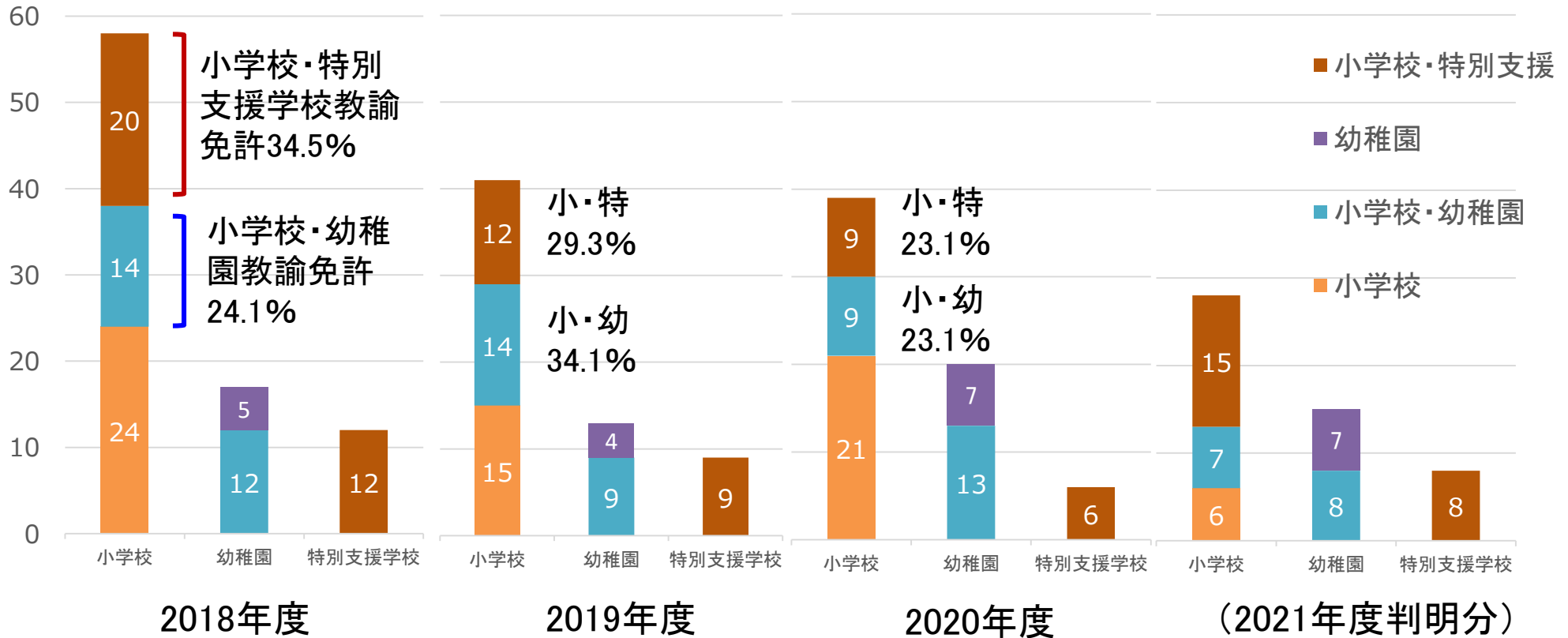


取得免許状の内訳



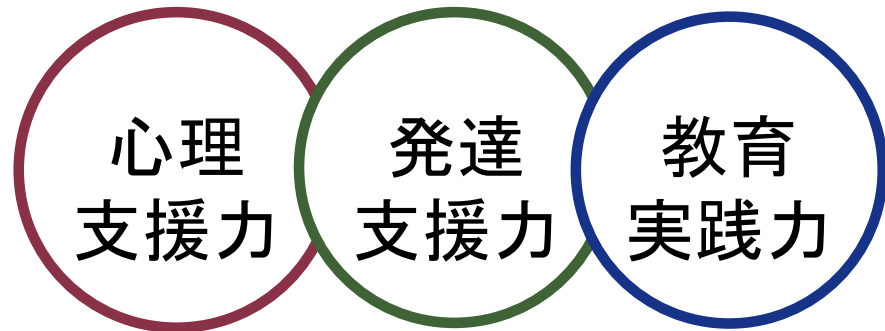
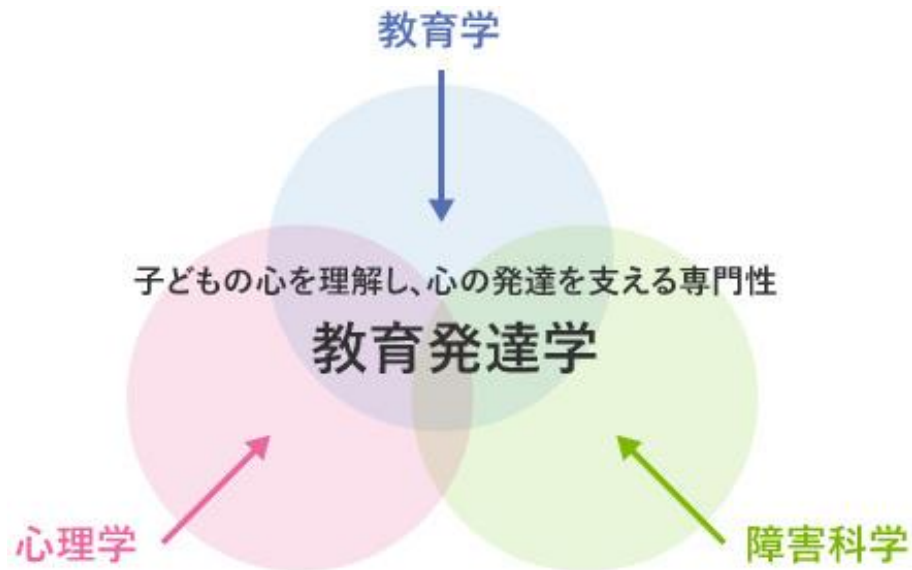
教育発達学科の免許取得者の割合は学科卒業者の74.6～88.5%、  
免許取得者のうち教員就職者の割合は52.9～67.0%。

# 就職校種と取得免許



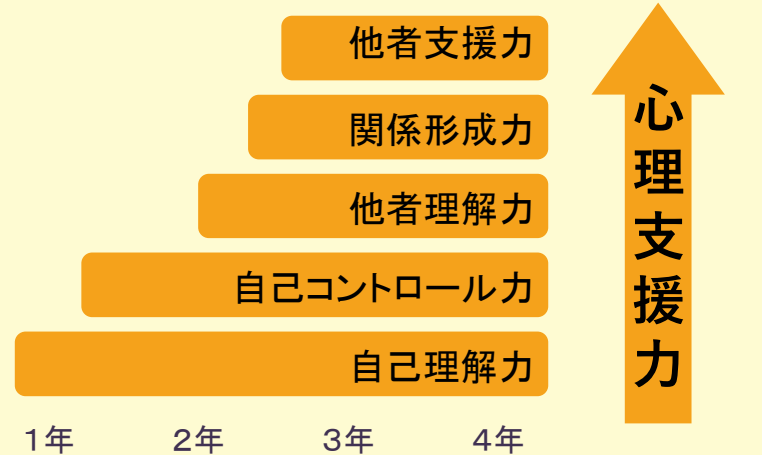
**小学校に就職したもののうち、幼稚園教諭、特別支援学校教諭免許状を併せ持つものの割合が46.2～63.4%。**

# 教育発達学科の特色



子どもを支える3つの力

支援を求めている人に**共感的**に関わって、問題解決を図ることのできる**人間力**



[2008-2010年度 文部科学省質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)に選定]

子どもの心のメカニズムと心の発達を

理解する力

支援する力

教科の指導力、子どもの学びをコーディネートする力

# 教育発達学方法論(体験活動)

- **学科基幹科目(必修)** 横浜市教育委員会と覚書を取り交わし実施  
免許課程外の科目だが小学校教育実習の前提科目に指定

## ■ 目的

- ・教育発達学の**理論**を実際の**教育現場での経験**に結び付けて考え、PDCAを実施することを身につける。
- ・実際の現場経験の中から大学での**学びのテーマ**を学生自らが**発見**し、学びを深めていく。
- ・体験活動を通じて、**自分自身の興味関心や適性**について知ること。

- **活動内容** ※新型コロナウイルス感染症のため2020年度・21年度は活動内容、回数を変更

- ・**週1日**、横浜市内の公立**小学校**で**学習支援**に参加(年間24回)
- ・特別な支援の必要な児童への支援を中心に活動(学校により異なる)



# 教育発達学方法論(体験活動)

## ■ 学修内容

- ・子どもに近い視点での様々な支援を通して、**子どもへの心理支援**について考える。
- ・以下のような**視点をもって活動に取り組み**,各自で課題を見つけて学修テーマを設定する。

子ども生活／子どもの成長・発達／子どもの学習／子どものコミュニケーション／子どもの心理／子どもへの働きかけ／子どもと教員の関係 など

## ■ 報告会(年3回)

- ・グループに分かれてそれぞれの**体験を共有し、振り返る**。
- ・グループごとに発表して全体で共有。

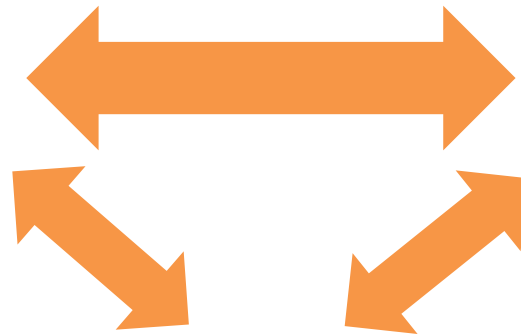
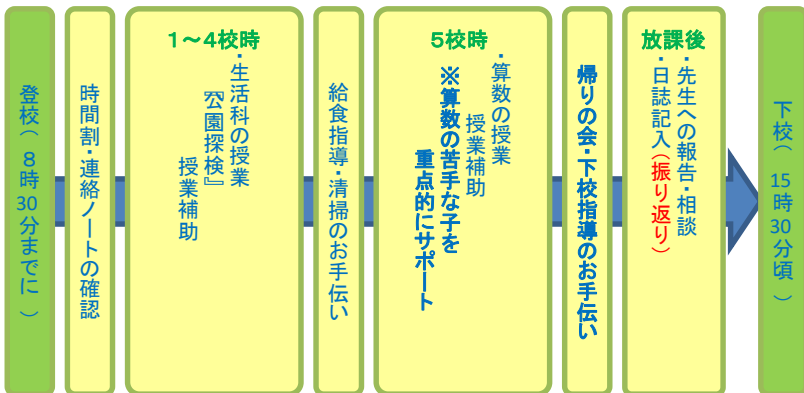
# 教育発達学方法論(体験活動)

毎週木曜日は1人で小学校へ



2019年度は横浜市立小学校131校  
で活動

体験活動の1日(例)



報告会で体験を  
共有・振り返り



月~水・金は  
大学で講義

中間報告会2回  
最終報告会1回

# 特別支援臨床基礎実習

## ■ 特別支援コース必修科目 免許課程外の科目

32名(2019年度)、45名(2020年度)、32名(2021年度)が履修。多くが特支免許取得。  
4年次に選択科目「特別支援臨床実習」開講。9名(19年)、14名(20年)、12名(21年)

## ■ 目的

障害のある子どもの**心理支援・教育支援**の方法と課題、支援者としての**適切な態度**を実践的に学ぶ。

## ■ 内容

- ・毎週**土曜1・2時限**連続で実施。
- ・心理学部附属研究所相談・研究部門  
(**心理臨床センター**)で実施。

心理、教育、発達に関する相談サービスを通じて  
地域社会に貢献。大学院生・学部生が教員の指導のもとで実習。



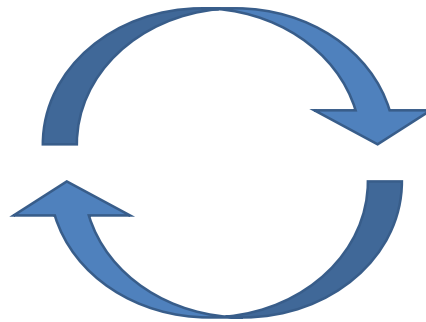
# 特別支援臨床基礎実習

## ■ 内容

- ・特別な支援を必要としている**子どもの支援**を、担当教員の指導のもと、**学生支援チーム**（7名程度で構成）が1年間担当して**実践**。
- ・支援セッション（年10回）、準備・振り返りのミーティング（年14回）、報告会（年3回）、クリスマス会（2020年度・21年度は休止）で構成。
- ・2021年度は7チームが7名の子どもたちを支援。



支援セッション



およそ隔週で  
繰り返す



ミーティング

# 特別支援臨床基礎実習

- 担当する子どもの**実態**、**支援ニーズの把握**

子どもとのやりとり、行動観察、保護者面接、引き継ぎ資料など

- **支援目標**（長期目標、短期目標）の設定

1年間の支援目標を設定。報告会での指摘を踏まえて修正。

- **支援セッション計画表**を作成

セッションのねらい、流れ、手順、場面設定、役割、教材作製など

- **支援セッション**、**保護者面接**の実施

担当教員・特別TA(カウンセラー)が保護者面接。学生は交代で陪席。

- セッションの**振り返り**、保護者面接からの情報共有

担当教員からセッションの改善点などを指導。

- 次回セッションの**立案**

どんな子ども？  
発達特性は？  
認知特性は？

課題設定と支援の  
手立ては子どもの実  
態に合っているか？

# 心理学関連の開講科目と教員免許

科目	小学校	幼稚園	特別 支援	学科	児童 発達 コース	特別 支援 コース	国際 教育 コース
心理学総論				◎			
教育心理学	◎	◎		◎			
生涯発達心理学(乳幼児・児童)				◎			
障害児・者心理学(コミュニケーション)			◎	◎			
障害児・者心理学(学習)			◎	◎			
生徒・進路指導の理論と方法	◎	◎		○			
教育相談の理論と方法	◎	◎		○			
子どもの学習支援支援の心理学					◎	○	
子どもの家族支援支援の心理学					◎	○	
幼児理解の理論と方法		◎					
生涯発達心理学(青年・成人・老年)							
知的障害の病理			◎		○	◎	
障害児教育相談とアセスメント			◎		○	◎	
心理検査法					○		
個別支援論					○		
肢体不自由の心理・生理・病理			◎			◎	
病弱の心理・生理・病理			◎			◎	
多文化支援心理学							○
多文化と子どもの発達							○
特別支援臨床基礎実習						◎	
特別支援臨床実習							
心理学科科目(8科目)							

2021年度生  
カリキュラム

学科科目  
118科目開講

心理学関連  
21科目開講

2022年度生  
カリキュラムから  
必修、選択必修の  
見直しを予定。

◎必修  
○選択必修

# 小学校教員となった卒業生の声

## ■ 体験活動

- ・「この子にはこのやり方があうし、あの子には別のやり方があうな」と検討する引き出しが増えた。
- ・子どもが1年間でどのくらい成長したかを振り返り、教師のやりがいを実感できた。
- ・保護者や子どもと話をする時、どんな言葉で伝えたらよいか考えるのに役立つ。
- ・教員の仕事に変な期待をせず、見通しや覚悟をもてた。自分の将来像が見えた。

## ■ 特別支援臨床基礎実習

- ・「あの時あの子はこういていたな」と思いだしながら、子どもとかかわっている。
- ・他の教員と子どもの状態を共有したり、助言を受けたりする大切さを学んだ。
- ・机間指導の声かけ、児童同士のトラブル時の話し合いなどで活きている。
- ・集団を一度にみる「担任」と一人の子どもを複数でみる「実習」では大きな違いもある。



ご清聴ありがとうございました。